



令和3年度 小樽商科大学学術研究奨励事業  
第16回「学生論文賞」

国立大学法人小樽商科大学

グローバル戦略推進センター教育支援部門

## 目 次

総 評.....	1
審査結果一覧.....	2
ヘルメス賞及び優秀賞講評 .....	3
審査員一覧.....	6

## 総 評

学生論文賞実施委員会  
委員長 中浜 隆

今年度は、学部生部門に25編の応募がありました。所属学科の内訳は、社会情報学科から8編と最多で、続いて商学科から7編、企業法学科から6編、経済学科から4編の応募となりました。

今年度もコロナ禍に見舞われ、文献の収集や調査などに一定の制約があったことと思われる。それにもかかわらず、多数の応募をいただいたことは、誠に喜ばしい限りです。

審査については、2段階審査で行いました。第1次審査は、25編について、多分野の研究に携わる23名の教員が、学術横断的な視点からプレゼンテーションの審査を行いました。第2次審査は、第1次審査を通過した10編について、論文内容に関連した研究に携わる20名の教員が論文の審査を行いました。

厳正な2段階審査の結果、大賞となるヘルメス賞1編、優秀賞4編、奨励賞3編、第1次審査のプレゼンテーションで最上位の得点を得た論文に授与されるベスト・プレゼンテーション賞1編となりました。

本論文賞に応募した論文は、「研究の手法・分析方法」や「研究の独創性・新奇性」などの審査項目の得点に差こそ出ましたが、総じて、現代的な課題に相接しようとする意欲的かつユニークなテーマを設定しており、時間と労力をかけて創り上げたことがよく伺われる労作でした。なかでもヘルメス賞と優秀賞を受賞した論文は、研究の分析方法・論理性・独創性・新奇性に秀でており、高く評価できました。

今回の研究を通じて、「考える力」がいつそう付くとともに、社会科学系の研究にあっては「社会をみる眼」も養われたことと思います。今後、大学院や企業の研究・調査部門などで高度な研究を行う場合はもちろん、たとえそうでなくても、新たな課題に直面し、それに対する対応策・解決策を見出さなければならなくなった時などに、今回の研究で得られた経験や成果がきっと役に立つはずであり、ぜひともそれらを活かしていただければと思います。

今年度もコロナ禍にあって困難な状況にありましたが、ご多用中にもかかわらず、本論文賞の開催・審査にご協力いただいた教職員の皆様には、厚く御礼を申し上げますとともに、来年度もなにとぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本論文賞の実施に当たりまして、株式会社北洋銀行様より例年と変わらぬ多大なご支援を頂戴いたしました。記して深甚なる謝意を表します。

## 審査結果一覧

### ヘルメス賞

企業ドメインと組織文化の関係メカニズムの解明  
—星野リゾート株式会社の事例分析— 佐藤 紀香

### 優秀賞

オンラインコミュニケーションにおける視線情報を用いた  
話者交代を円滑にする手法の研究 笠原 有真

3種類のサンショウウオの孵化幼生は水中のアミノ酸によって  
成長を促進させる 谷村 恵奈

老舗企業の長期存続プロセスと物語り (narrative)  
—銀座木村屋の分析— 荒山 萌美

予算に着目した議論マイニングのための予算と会議録の連結手法 永渕 景祐

### 奨励賞

三次元格子状交通ネットワークの最適構成 小野寺 裕  
尾谷 風花  
宇佐見 玲奈

日本のスポーツ産業クラスターの検証  
—北海道日本ハムファイターズを中心とした相互作用プロセスを通じて— 大浦 未咲

日本語 Wikipedia を対象としたファクトチェックデータセット構築 中井 葉月

### ベスト・プレゼンテーション賞

企業ドメインと組織文化の関係メカニズムの解明  
—星野リゾート株式会社の事例分析— 佐藤 紀香

## ヘルメス賞及び優秀賞論文講評

### ヘルメス賞

「企業ドメインと組織文化の関係メカニズムの解明 ―星野リゾート株式会社の事例分析―  
佐藤 紀香

本論文と最も関連の深い先行研究として、若林広二（2012）『道具としての「事業定義」－ドラッカーが事業を定義すれば－』が挙げられる。若林は、本論文と同様に、戦略スタッフやコンサルタントではなくて、当事者である組織メンバーが自らドメインを設定する「創発的アプローチ」を分析している。そこで取り上げられたケースの一つが、星野リゾートの支援を受けて再建を果たした静岡県伊東温泉の「いづみ荘」である。

若林に代表される先行研究と比較して、本論文は次のような特色を持つ。

- ① 星野リゾートでは全社、各ブランド、そして各ホテルの3つのレベルでドメインが設定されるという重要な事実を指摘している。こうしたドメインの階層的構造を示した図表（8頁）によると、いづみ荘のような再生ホテルの場合には、例外的に全社ドメインと個別ホテルのドメインとがダイレクトにつながっている。若林の研究は、実は星野リゾートの内でも特殊なケースを扱っていたことがわかる。
- ② 本論文は、星野リゾートにおける典型的なケース、つまり個々のホテルのドメインと全社ドメインの間に各ブランドのドメインという中間レベルが介在するケースを分析の対象としている。具体的には、「OMO」というブランド傘下の「OMO 旭川」におけるドメイン設定プロセスを研究している。OMOブランドのドメインは「旅のテンションを上げるホテル」である。このブランド・ドメインを前提に、星野リゾートの経営陣とOMO 旭川の従業員との間で話し合いがもたれ、「まちなかみつけたび」というOMO 旭川独自のドメインが設定されるに至った。さらに、このドメインにもとづく取り組み、たとえば宿泊客と一緒に歩きながら旭川の街を案内する「ご近所ガイドのOMO レンジャー」などが誕生した。本論文の筆者は、変容したのは単に取り組みないし行動だけというよりも、行動の様式や価値観であったと解釈する。論文中の用語を借りるならば、ドメインが「組織文化」の形成にも寄与したのである。
- ③ ③企業が設定するドメインは、複数の利害関係者にとって共感性や納得性が高いものでなければならない。先行研究では、ドメインの共感性や納得性（これを「ドメイン・コンセンサス」という）は、もっぱら設定されたドメインの「内容」に左右されると考えられてきた。一方、本論文は、詳細なケース・スタディを通じて、ドメイン設定の「プロセス」こそがドメイン・コンセンサスを生み出すという新たな視点を提供している。

以上のように、本論文は戦略論の最重要トピックの一つである「ドメイン」に関するわれわれの認識の進歩に大きく寄与するものである。このプラスの価値は、本論文が抱えるいくつかの問題―たとえば誤字脱字や先行関連文献の見落とし（本講評で用いた若林（2012）の研究への言及がないなど）―を補って余りあるものと判断される。

## 優秀賞

### 「オンラインコミュニケーションにおける視線情報を用いた話者交代を円滑にする手法の研究」

笠原 有真

本研究は、世界的な感染症拡大によりオンラインビデオコミュニケーションの利用が急速に普及する社会的背景を踏まえた、コミュニケーション支援システムの開発と検証に取り組んだものです。3名以上の話者の同時会話における話者交替と視線の関係に着目し、視線（注目）をマウスにより代替する実験と既存の視線トラック技術を応用して、全会話参加者に対して全員の視線情報を共有する実験を行い、会話の円滑性の観点でそれぞれの支援システムの性能を定量的／定性的に評価しています。

筆者自身が実際に実験用のシステムを開発したことで、詳細なパラメータの調整やUIの改善、評価結果の解釈を可能にしており、卒業研究の水準として優れたものであると評価されました。他方で筆者が行った2つの実験には、被験者の属性が大学生に限定され且つ友人同士であることや、マウスポインタによる視線代替機能の妥当性、自カメラ映像の常時表示の影響など、いくつかの課題が残っていますが、それらは今後の研究課題として引き続き分析を深めていただきたいと考えます。

利用者の急拡大を背景に、現実のオンラインビデオコミュニケーションツールのUIは急速に進化しつつありますが、コミュニケーションの円滑性向上やストレス軽減を画質や音質の向上に依存する傾向があり、結果として通信資源や端末の処理能力不足の原因になっていると考えられ、本研究が着目するような「非言語情報を用いた話者交替支援によるファシリテーション機能」の実装は、ストレス低減に加え通信資源の節約といった多面的なユーザメリットの実現に繋がることも予想され、本研究の発展可能性として期待されるものです。

### 「3種類のサンショウウオの孵化幼生は水中のアミノ酸によって成長を促進させる」

谷村 恵奈

本論文は、近年指摘されている水生脊椎動物も環境中のアミノ酸を利用できる可能性について、北日本に生息する3種のサンショウウオの孵化幼生を対象として調べた研究である。適切な実験条件を設定し実験を実施することで、高濃度の溶存アミノ酸環境下ではサンショウウオ類の孵化幼生の成長は促進されることが示された。得られた結果に対し、水生生物による溶存アミノ酸の利用やアミノ酸効果の違い、応用的意義(波及効果)について先行研究を精査し、論理的に考察されている。実験自体は2020年5月に終了しているため、溶存アミノ酸の取り込み実験等を追加で実施すれば研究をより深化できたと思われるが、学生論文としては優れており、優秀賞に値する。

## 「老舗企業の長期存続プロセスと物語り (narrative) -銀座木村屋の分析-

荒山 萌美

本論文は、老舗企業の長期的存続要因が既存の経営資源や構造といった静態的要因にあるのではなく、老舗固有の動的適応行動の中にあることを解明した研究である。固有の適応行動を捉えるために「過去の出来事（記憶）を一定のコンテキストの中に再配置し、それらを将来の活動に向けた行為」である歴史学の物語の概念に注目し、過去・現在・未来の時間軸の中で実施される解釈学的変形のプロセスに老舗の長期存続要因があることを理論的に明らかにしている。また、この点を検証するために銀座木村屋の企業活動が取り上げられ、同社の変化の歴史を丹念に辿りながら、経営と現場の双方において過去の行動が再解釈され企業理念が形成されるプロセスを抽出し、同社の物語のプロセスの存在を検証している。以上の点から本論文は、事例分析の方法については調査設計の厳密性の問題が残るものの、老舗企業固有の適応の仕組みを検証した優れた研究として評価される。

## 「予算に着目した議論マイニングのための予算と会議録の連結手法」

永渕 景祐

現在、国会・議会の会議でどのような審議を経て予算が成立したのかを、国会・議会の会議録から把握することは難しい。そこで、自然言語処理技術を用いて、国や地方自治体が公開する予算文書と会議録の議論を自動的に結びつける Budget Argument Mining が開発された。本研究では、Budget Argument Mining における「議論ラベルの付与」と「関連する予算項目の連結」のタスクについて、文脈を考慮したデータ（文書ベクトル）を用いることでそれらの正解率、適合率、再現率などの精度が高められるのか否かを明らかにすることを目的としている。文脈を考慮しない Bag of Words, TF-IDF 等のモデルにより取得した文書ベクトルを用いた LogisticRegression, Lin-earSVC, SVC の各分類器と、文脈を考慮した解析を行う BERT の分類器を用いて比較実験を行い、文脈を考慮した文書ベクトルを用いることが、「議論ラベルの付与」では精度を高め、「関連する予算項目の連結」では必ずしも精度を高めないことを明らかにした。

誤字や根拠が不明瞭な考察がいくつかあるなどの問題点を含むが、自然言語処理の先行研究を学習の上、複数のモデルを用いて適切に比較実験を実施し、分析、考察をして結論を導き出している点は本学学部生の論文としては十分に評価できる。

## 審査員一覧

### 第1次審査員一覧 (50音順)

池田 真介	石川 業	市原 啓善	伊藤 一
猪口 純路	内田 純一	王 力勇	大津 晶
金 鎔基	小泉 大城	小林 友彦	佐山 公一
ジョーダン チャールズ	高橋 周史	多木 誠一郎	竹村 壮太郎
中川 喜直	中浜 隆	西口 純代	西出 崇
廣瀬 健一	藤江 稔	松家 仁	

(以上 23 名)

### 第2次審査員一覧 (50音順)

猪口 純路	内田 純一	大津 晶	乙政 佐吉
加賀田 和弘	片岡 駿	木村 泰知	小泉 大城
後藤 英之	小林 広治	佐山 公一	高橋 恭子
玉井 健一	西村 友幸	沼澤 政信	沼田 ゆかり
深田 秀実	松本 朋哉	三浦 克宜	林 松国

(以上 20 名)